

謝辞

この論文は、筆者が筑波大学博士課程終了時に学位請求論文として提出したものです。

旅が好きで、様々な地域に出かけていましたが、歴史的市街地を訪れる度に、その魅力と現在の都市生活には対応できず衰退していく姿を同時に見つめる場面と遭遇し、なんとか衰退を食い止める整備ができないものかと思ったのが本研究を始めるきっかけとなりました。

しかし、いざ研究対象として都市や市街地と向き合うようになってからは、対象範囲の定義及び設定、自治体へのヒアリングや資料収集、そして実際の市街地の観察調査等、多くの作業と調査を行うこととなり、これらに対する自分なりの調査方法の会得にはかなりの時間と経験を要しました。論文の構想段階では、歴史的市街地の特質をできるだけ詳細に導くことを念頭において研究を進めたために、フレームのたてなおしを幾度と行い、その都度分析の視点と手法を変更するという作業と取り組むこととなりました。

前筑波大学芸術学系（現神戸芸術工科大学）の土肥博至教授には、このような研究方法を辛抱強く、また暖かく見守って頂き、多大なご指導を頂きました。深く感謝いたします。また、同学系の富江伸治教授には、土肥先生退官後の指導教官及び主査として、ご指導して頂きましたことを心から感謝いたします。さらに、同学系安藤邦廣教授、鈴木雅和助教授には副査をお願いし、それぞれご専門の立場から貴重なご意見を頂きました。また、芸術学系環境デザイン研究室の三村翰弘教授、渡一由講師、野中勝利講師には折に触れ貴重なご意見を頂きました。記して感謝の意を表します。

さらに、建設省建築研究所の岩田司室長には、修士課程の学生時代から長年に渡って、全国の地域や都市の調査方法及び研究方法についてご教示を頂きました。また、(株)インフォマティクス営業部の岩塚淳氏には、GISの分析手法について多くのご助言を頂きました。記して感謝の意を表します。

調査にあたっては、多くの自治体担当者の方々、まちづくりに関わる専門家のみなさん、それぞれのまちの住民の皆さんにご協力を頂きましたこと御礼申し上げます。

最後になりましたが、長年にわたって研究への理解と励ましを与えてくれた両親と友人として常に支えてくれた最愛のパートナー、小野尚人にこの場を借りて感謝の辞を述べたいと思います。

1999年 3月 福本佳世